

## 昨年度(令和元年度)の授業改善プランの検証 現5年(旧4年)

	成果	課題	改善策
国語	<p>◎宿題や漢字テスト等で漢字練習を反復的に行った結果、文章中に使われている漢字を読むことができるようになった。</p> <p>◎中心となる語や文にサイドラインを引き、文意を捉える学習をしてきたことにより、物語文や説明文を読む力が付いてきた。</p> <p>◎話し合い活動を積極的に取り入れた結果、話し合っただけで課題を解決したり、考えを広げたり深めたりすることに意欲的に取り組めた。</p>	<p>▼語彙が少ない。また、漢字が読めても正しく書くことができないことに課題がある。</p> <p>▼文章全体の内容を要約して文章にまとめることに課題がある。</p> <p>▼文章が難しくなり、国語に対する苦手意識をもつ児童が多い。</p>	<p>★新出漢字や文章中の言葉を辞書で調べ、ノートにまとめる。また、考えや気持ちを表す言葉をまとめた冊子を用いて、使える語句を増やす。</p> <p>★表にまとめて文章の構造を把握したり、筆者の考えを文中から見つけたりし、文章を構造的に理解し、短い文でまとめる活動を行う。</p> <p>★日常的に小説等の読書に親しませ、長い文章に対する抵抗をなくす。</p>
社会	<p>◎ICT を用いて地名や名称を繰り返し学習することにより、児童が楽しんで覚えることができた。</p> <p>◎振り返りやまとめにキーワードを考えて書くことにより、何を学んだのか、何が大切なことなのか意識するようになった。</p> <p>◎資料を読み取る視点を明確にすることにより、読み取る力がついてきた。</p>	<p>▼見学や体験学習など具体的な事象と資料を知識と結び付けて考えることに課題がある。</p> <p>▼写真や図、グラフから物事の因果関係を読み取ることが不足している。</p>	<p>★写真や図、グラフから読み取れる事実を一つずつ確認していき、「なぜこのようなもの(人)があるのか」など問いかけ、因果関係を読み取るきっかけをつくる。</p> <p>★資料を読み取って自分は何が分かったのかを意識しながら読ませたり、メモをとったりするように声かけを行う。</p>
算数	<p>◎自力解決の時に、既習事項のどのやり方が使えるか、想起させることにより、児童が見通しをもって取り組むことができた。</p> <p>◎問題解決で、ICT を用いて説明したり、発表したりする場面を設けることで、児童が意欲的に自分の考えを伝えることができた。</p>	<p>▼基本的な計算に課題がある。</p> <p>▼自力解決の時に様々な方法がでないことがある。</p> <p>▼数がどんな言葉を表しているのか、言葉で説明</p>	<p>★計算の意味理解に努めると共に結果を見積もることや検算を行う場をより多く設定する。また、定期的に既習事項を振り返らせ、習熟・定着に取り組む</p> <p>★式だけでなく、線分図や図、様々な方法があることを児童の言葉から出るように問いかける。</p>

		ができない。	★計算式を書く段階で、いきなり数字を書くのではなく、言葉の式を書くことから始める。
理科	<p>◎ 導入時に、自然事象が実感できる体験的な活動を行うなどして、関心や意欲を高め児童の問題意識を大切にしたい指導を進め主体的に学習に取り組む態度が身に付いた。</p> <p>◎ 問題→予想→観察・実験→結果→考察→結論の学習過程を児童にも意識させ、学習を自己調整する力が身に付いてきている。</p> <p>◎ 観察・実験には意欲的である。</p>	<p>▼ 経験したことや実験結果からまとめたことが知識として定着していない。</p> <p>▼ 理科全体については苦手意識が強い児童が多い。</p> <p>▼ 科学的な考察を行い、文章として表現していく力がまだ不足している。</p>	<p>★導入時に、科学的な事象が実感できる体験的な活動を行うなどして、関心や意欲を高め児童の問題意識を大切にしたい学習活動を重視する。</p> <p>★教科書に出てくる用語を使って課題のまとめを行い、知識・理解へと結び付ける。</p> <p>★児童が、予想や仮説をもち、それらをもとにして観察・実験などの計画や方法を考えることができるよう指導する。また、実験器具を正確に扱えるようにする。</p> <p>★問題→予想→予想理由→観察・実験計画→観察・実験→結果→考察→結論の学習過程を行い、科学的・論理的に考えてまとめていけるようなノート指導をする。</p>
音楽	<p>◎常時活動として毎時間の最初に身近な音楽を聴く鑑賞の学習を取り入れることで音楽を聴いて言葉で表現することに苦手意識をもつ児童が少なくなった。</p> <p>◎旋律の特徴を音楽の要素や曲想、旋律の特徴と自分の気持ちを結びつけて言葉や音楽で表現することができるようになってきた。</p> <p>◎旋律の特徴を生かした音色になるように、練習から言葉で特徴を表現させてから音楽での表現へとつなげることで、旋律の特徴を生かした表現ができるようになった。</p>	<p>▼音楽を聴いて言葉で表現する活動を常時取り入れたことで、箇条書きでの表現はできる児童は増えたが、文章での表現が難しい児童も多い。音楽の要素と気持ちを表す言葉とを結びつけるだけでなく例や楽曲の情景へと発展させて考えることが難しい。</p> <p>▼旋律の特徴は理解していてもどのように表現したらいいか考えることは難しい。</p>	<p>★文章で表現するよう声かけを行う。また、音楽の要素から思い浮かぶ例や情景の例を示し少しずつ発展的に考えられる機会を設ける。</p> <p>★旋律にふさわしい表現の仕方を範唱・範奏を行う。</p>

<p>図工</p>	<p>◎作品の制作途中で、ミニ鑑賞会を取り入れ、友達の作品で参考にしたい良い部分を見つけたり、自分の今までの活動の振り返りを行ったりすることで、新たに自分の表現活動に生かすことが出来た。</p> <p>◎作り方の手順のワークシートを作り、児童が見通しをもって活動に取り組むことが出来るようにした。</p>	<p>▼児童の進行速度に差があるため、ミニ鑑賞のタイミングがむずかしく、参考にしたいところを取り入れるのが難しい児童がいた。</p> <p>▼ワークシートで、理解が出来ず、何度も質問されるがあった。</p>	<p>★ミニ鑑賞の機会を増やすことで、児童が自分の進行速度について見直すことが出来るようにすると共に、参考にしてほしい作品を教員が選択することで、どんな工夫を取り入れたら楽しいかを考えられる機会を増やす。</p> <p>★わかりやすいワークシートを目指して、文章や図の精選を行う。</p>
<p>家庭科</p>	<p>◎ICTの活用や実演を取り入れ、視覚的に製作方法を提示したり、友達の作品を紹介したりすることで、児童の製作への理解に繋がり、一人一人の作品の幅を広げられた。</p> <p>◎振り返りを書かせることで、児童が自分の作品に対する取り組み方を振り返り、作品をより良いものに仕上げようとする意欲に繋げることができた。</p> <p>◎日常の身近な問題を取り上げることで、自分自身や周囲への影響を考え、課題を解決しようとする意欲を高めることができた。</p>	<p>▼技能面での個人差が大きい。</p> <p>▼学習した内容を日常生活で実践できていない。</p>	<p>★基本的な技能を定着させる。</p> <p>→児童同士の教え合いを取り入れたり、教員が個別に対応したり、対話を交えながら活動する。</p> <p>→タブレットで事前録画したものを配信し、児童が繰り返し見られるコーナーを作る。応用編も取り入れることで、個人差を埋めていく。</p> <p>★日常で実践することで、生活がより良くなることを実感できる活動を取り入れる。</p> <p>→児童が本やタブレットで調べた、学校生活や家庭生活で実践できる事例を全体に紹介し、それによって生活がどう変わるか考えさせる。</p> <p>→家庭との協力を図り、児童が家で実践したことを新聞やレポートにまとめ、報告会を開く。振り返りも含めて、次回の改善を考えさせる。</p> <p>→教員や保護者のコメントを添えることで、次</p>

			なる実践への意欲を高める。
体育	<p>◎様々な運動に取り組む場を設定したことで運動に対する意欲が高まった。</p> <p>◎技能の個人差に応じた場を用意したことで 苦手を克服しながら技能を身に付けられた運動領域があった。</p>	<p>▼運動の楽しさや技能の高まりを実感できない児童が見られた。</p> <p>▼適切に自己のめあてを設定し、互いに教え合うことが不十分である。</p> <p>▼各領域で、児童の技能に差がある。器械運動は全体的に技能の習得が不十分である。</p>	<p>★意欲的に取り組めるように、段階に応じた場を設定したり、用具を活用したりする。</p> <p>★友達との教え合いの場を設定することで意欲を高める。</p> <p>★運動時間を確保して課題解決できる時間を十分確保する。</p> <p>★教師が技能のポイントを正しく理解し、個の課題に応じた指導をする。</p>